第４回宇宙科学・探査部会　議事要旨

１．日時：平成２５年５月２９日（水）　１７：３０－２０：００

２．場所：内閣府宇宙戦略室５階会議室

３．出席者
（１）委員
松井部会長、薬師寺部会長代理、家森委員、小野田委員、櫻井委員、田近委員、永原委員、山川委員、山崎委員
（２）事務局
西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、國友宇宙戦略室参事官

４．議事要旨
（１）宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）からヒアリング
ＪＡＸＡから、資料１－１から１－４に基づき、ヒアリングを行った。委員から、以下のような質問・意見等があった。（以下、○質問・意見等、●JAXA の回答）

○ロードマップやプロジェクトの作り方について、欧州ＥＳＡ、米国ＮＡＳＡはどのようにやっているのか。

●ＥＳＡとＮＡＳＡでは、ＩＳＡＳのやり方はＥＳＡに近い。ＥＳＡは、一定の頻度で規模別に公募を行う。テーマをあげて、課題をまとめていく方法については見習いたい。ＮＡＳＡはＤｅｃａｄａｌ　Ｓｕｒｖｅｙという１０年毎の計画を分野別に作成し、ＮＡＳＡの外で科学者が優先度付けを行っている。最近は、ＮＡＳＡの予算が厳しく、この外部からの推薦に従って実行できない、というミスマッチ問題が生じている。

○多数のワーキンググループがあるが、具体的なプロジェクトが生まれてこないという状態になったのは何故か。

●欧米との競争に勝つため、「はやぶさ２」や「ＡＳＴＲＯ－Ｈ」など全体に高度化・大型化し、予算も３００億円を超える中型衛星が多くなり、コストが増大した。そのため、小型衛星や海外衛星へのＪＡＸＡ機器の搭載など多様なミッション機会を捉えるよう転換を図っているところである。予算の制約からなかなか公募に踏み切れなかったことも原因と考えられる。

○今までと違う考え方でロードマップを作るべき。例えば、宇宙科学・探査の分野分けについても、これまでどおりでよいのかという点も検討すべき。

○ＪＳＰＥＣのＩＳＡＳへの一元化において、工学研究が遅れたのは何故か。一元化を加速すべき。

●ＪＳＰＥＣの工学研究にはＩＳＡＳだけでなくＪＡＸＡ他本部とも連携しており、それぞれのミッション毎に仕事の整理が必要であり、それに時間がかかる。学術に係る工学研究のＩＳＡＳへの一元化については、年度末を目途としている。

（２）「平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙科学・探査部会の意見（案）について

事務局から資料２について説明をしたところ、以下のような意見があり、資料２「「平成２６年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する宇宙科学・探査部会の意見（案）」については、一部修正の上、部会意見として宇宙政策委員会に報告することとなった。

〇各委員が優先順位を付けて評価すべき。

〇優先を付けるにあたって、コミュニティーの意見を尊重すべき。

〇ＩＳＡＳの立場としては、現行の４つのプロジェクト全てが優先順位１位であり、優劣は付けられない。

〇ＩＳＡＳの所長の立場としては、なかなかプロジェクトに色を付けられる状況ではなかった。これをどう変えて行くべきかが課題。

その後、委員から優先順位について意見交換を行った。その概要は以下のとおり（ＢｅｐｉＣｏｌｏｍｂｏについては、今後必要とされる予算額が７億円と少ないことから優先順位の意見交換の対象とはしなかった。）。

〇平成２６年度打上げが必要であることなどから、「はやぶさ２」を最優先としたいとの意見が２／３程度の委員からあった。

〇太陽活動期に合せて打ち上げる必要があることなどから、ＥＲＧを優先とする委員もいた。

〇ＮＡＳＡとの協力プロジェクトであるが、これまで予算の制約により打上げが先送りされていることから、日米協力の観点を踏まえ、ＡＳＴＲＯ－Ｈを優先とする委員もいた。

以上